



ふくし・かいご通信

発行：社会福祉法人北海道社会福祉協議会
北海道福祉人材センター ☎011-272-6662



北海道福祉人材センター
HPリンク

北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。



今月のテーマ 「介護のワンポイント」

～介護現場の生産性向上って知っていますか？～

一般社団法人 北海道介護福祉士会 参与 酒井賢一 氏
株式会社そよかぜ 専務取締役

■介護現場に生産性向上はなぜ必要なの？

日本は少子高齢化が進んでいます。このことは、この記事を読んでいる皆さんは既に聞いたことがあると思います。では、少子高齢化が進むとどうなるのでしょうか。その原因は大きく二つあります。

一つは出生率の低下です。人々が子どもを産む人数が減っているため、社会全体の若年層の割合が減少していきます。経済的な負担や育児にかかる時間、仕事と家庭の両立の難しさなどが原因です。

二つ目は平均寿命の延びです。医療技術の進歩や生活水準の向上により、人々の寿命が延びています。その結果、高齢者の割合が増えていき、それに伴い介護の必要性が増すことと、多様な生活支援ニーズに対応することが求められていきます。

人々が安心して生きて暮らしていくために社会保障があり、その社会保障の中の一つに介護があります。限られた人材であっても、介護の持続可能性と介護の質の維持と向上を図るために、介護現場の生産性向上が今とても重要な課題となっています。

■介護現場の生産性向上って何？

限られた人材や時間、資源を最大限に活用して、「一人でも多くの利用者に質の高い介護を届ける」ために、介護業務の改善や効率化を進め、その業務負担の軽減を図るとともに、そこで生み出した時間を直接的な介護に充て、介護サービスの質の向上につなげていくことです。

それでは、介護現場の生産性向上とはどのようなことを行うのでしょうか。

| | |
|-----------|--|
| 業務の効率化 | ムリ・ムダ・ムラのある業務の手順や重なりを減らし、介護従事者が効率的に仕事を進められるようにすることです。例えば、デジタル技術を活用して記録の一元管理を行うことで、紙の記録に比べて入力や情報共有がスムーズになります。 |
| スタッフの負担軽減 | 介護スタッフの負担を軽減することで、働きやすさが増しストレスが減ることで生産性が向上します。これには、適切な人員配置や見守り機器、記録の記載や共有する仕組みづくり、介護業務中のスタッフ同士がやりとりをしやすくなる情報伝達機器の導入など、働きやすい環境作りが含まれます。 |
| スキルアップと教育 | 職員のスキルアップを図り、より効率的な介護ができるようにすることも重要です。研修や定期的な勉強会によって、新しい技術や介護方法を学ぶことで生産性を向上させます。 また、介護現場の生産性向上を推進するための中核人材の育成もされています。 |

| | |
|---------------|--|
| チームケアの質の向上 | チーム内のコミュニケーションを改善し、職員同士の協力体制を強化することで、スムーズな連携が可能になり働きやすさが増します。これにより、介護業務の進行が効率的になり、全体的な生産性が上がります。 |
| デジタルテクノロジーの活用 | 日常生活の活動や睡眠等の状況を把握する見守りセンサー、リフトなど移乗介助機器、記録等の介護業務支援機器などのデジタルテクノロジーやICTを活かした機器の導入をすることで、介護従事者の業務を支援することで、負担を減らし効率的に業務を進めることができます。 |

介護ロボットやデジタルテクノロジーの活用が介護現場の生産性向上だと捉えられがちです。更には、人が行う介護業務をただ介護ロボット等に代替させるだけと思っているのかもしれませんが。

しかし、介護現場の生産性向上の本質的な考え方は、介護の仕事の意義を再認識して、自らの仕事へのやりがいや楽しさを実感し、モチベーションを向上させることにつなげることで、そのために、日常の介護業務を見つめ直し、改善することで職員間での負担の偏りを改善しつつ、チームケアを通じて介護サービスを提供するということです。

つまり、介護現場の生産性の向上は、介護従事者がより働きやすさをつくり出し、その働きやすさの中で、利用者とのコミュニケーションは増え、より理解が深まり、また職員間のコミュニケーションも豊かになるなど、チームでの介護が促進され風通しの良い職場作り、やりがいのある介護現場づくりにつながるためなのです。

■介護の価値を高める、生産性向上

厚生労働省の「[介護分野における生産性向上ポータルサイト](#)」にある関連の情報や資料、介護現場での取り組みに活用することができる「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」（サービス類型別）が示されています。

このガイドラインでは、介護サービスの生産性向上を「介護の価値を高めること」と定義しており、生産性向上に取り組む意義を、「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」とし、介護サービスの質の向上と人材定着・確保を目指すとしています。

ぜひ一度、この記事と併せてご覧になって頂ければより理解が深まると思います。



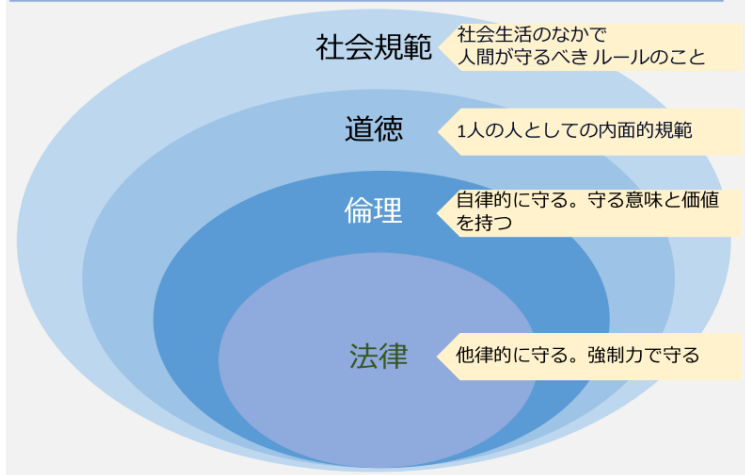
出典：『居宅サービス分 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン 改訂版 介護の価値向上につながる職場の作り方』厚生労働省老健局

■介護現場の生産性向上を進めるために大切な「高い倫理観」

これまでお伝えした通り、介護現場の生産性向上は「介護の価値を高めること」であり、「人材育成」「チームケアの質の向上」「情報共有の効率化」を図って、介護サービスの質の向上と人材定着・確保を目指すために行うことです。

そこで何より大切なことは、介護の仕事をする上での“高い倫理観”なのです。皆さんは「倫理」という言葉を聞いて何を思い考えますか。「倫理」は守ること、守れと言われて守ることでしょうか。

道徳と倫理と法律の関係性



引用：公益社団法人日本介護福祉士会 介護福祉士の職業倫理に関する事例検討会資料より（2023）

左図で示した通り、倫理は「自律的に守ること。それを守る意味と価値を自ら持つ」ことです。

介護を行うということは、人の心と体に深く関わり触れて、その人の日常生活の支援をする仕事なので、例えば「守れと言われたから守る。そう言われなかったから守らなかった」「やれと言われたからやる。やるなと言われたからやらない」ではなく、介護を必要とするその人の心身の状況に応じた介護を行う時、相手の自律を尊重し、正しく適切な介護を行うために、立ち止まり考えて、一つの実践を行うためにある基準であり、拠り所なのです。知識も技術も当然必要ですが、ここに介護の専門性があると思っています。

日本介護福祉士会に「倫理綱領」と「倫理基準」があります。文章で表された基準であり拠り所がありますので、一度読んで見ませんか。

参照：公益社団法人日本介護福祉士会ホームページ

<https://www.jaccw.or.jp/about/rinri>



例えば、介護現場の生産性向上を進める中で、介護を必要とする方への見守りセンサーやカメラを使用した場面を想像してみてください。センサーがベッドの下に敷かれて目立たなくなっても、見守りカメラがプライバシーに配慮されて、その方がはっきり映らないようになっていても、人の日常生活を考えた時には、それらによって常時見守られることは日常と言えるかどうかという事です。自分だったら常時見守られている日常生活はどのようなかという視点から、倫理的配慮が生まれてきます。

■まとめ

介護現場の生産性向上は、「介護の価値を高めること」です。ただ、便利だから、機能的だから、使うように言われたからなど、こちら側の優先した考えややり方ではなく、介護を受ける側も介護を提供する側も、どちらも幸せ（福祉）になるためにあります。

これからの介護のあり方とやり方を、相手の立場、自分の立場など視点を変えて、いろいろと考える機会になれば幸いです。

《引用・参考》

厚生労働省 介護分野における生産性向上ポータルサイト

<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/>

厚生労働省 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン

居宅サービスガイドライン（令和4年度改訂版）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei-information.html>



■読者へのメッセージ

ご縁と巡り合わせで福祉・介護の仕事に就いて35年が過ぎました。無資格、無経験で就いた介護の仕事ですが、私の拙い初めての介護であっても「ありがとう」の言葉を向けてくれました。介護はいつも「ありがとう」のやりとりです。人もいろいろ、人生もいろいろ、介護もいろいろです。

いろいろなことがあっても「ありがとう」に「ありがとう」で応えられる介護がいいなと思っています。

執筆者のプロフィール

北海道釧路市生まれ。介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、国家資格キャリアコンサルタント。1989年特別養護老人ホームで介護のキャリアが始まる。現在は訪問介護やサービス付き高齢者向け住宅の運営会社の専務取締役。北海道認知症介護指導者、くしろせんもん学校非常勤講師。公益社団法人日本介護福祉士会常任理事、一般社団法人北海道介護福祉士会参与



北海道介護福祉士会

一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に

寄与している団体です。★ 新入会員募集中 ★



ホームページ
はコチラ



入会のご案内
はコチラ

TEL&FAX 011-222-5200

介護補助の

お仕事説明会

——札幌近郊16法人が集結！——

介護補助は、介護職員や生活支援員をサポートするお仕事です。説明会では「介護補助」のお仕事だけでなく、幅広い職種や雇用形態の求人についてもお話しが聞けます！お気軽にご参加ください。

日時 令和6年12月13日(金)

13:00~15:30(受付:12:30~)

場所 かでる 2.7 10階 (札幌市中央区北2条西7丁目)

参加費 無料

☆詳細はホームページで (<https://hfjc.jp/briefing/hojyosetumeikai/>)

こんな方にピッタリ!

- ・人と接することが好きな方
- ・誰かの役に立ちたい方
- ・無理なく働きたい方



事前予約
受付中!

「ふくし・かいご通信」をお読みいただきありがとうございます。

皆さまからのご感想をお待ちしております!!



ご感想入力フォーム

北海道福祉人材センターでは、福祉職場への就職に関する相談を随時受付けております。お気軽にお問合せください。

TEL 011-272-6662

発行：北海道福祉人材センター

